

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

17

2021 OCTOBER

奈良らしい
景観を目指して



ハートマークをかたどった花植えの様子

花いっぱい運動の会



川阪 鈴子さん

花いっぱい運動の会
ボランティア会員



山口 悦子さん

花いっぱい運動の会
ボランティア会員 理事



小林 勉さん

花いっぱい運動の会
事務局(関西化学術研究都市センター株)

CSR活動とボランティアによる 彩りあふれるまちづくり

企業が自主的に社会貢献する責任を果たしていくCSR活動。

その一環として始まった活動が、ボランティアを呼び込み、さらに周りの事業所や、学校などにも参加いただいて、目にも鮮やかな花いっぱいの“まち”をつくりだしています。

まちなか 花守ボランティア

奈良県と京都府の府県界に跨って位置する平城・相楽ニュータウン。その玄関口にあたるのが近鉄高の原駅です。改札を出て西へ。商業施設が並ぶエリアに向かう陸橋「ふれあい橋」の手前から、左右の花壇には色とりどりの花が咲き乱れています。よく見ると、陸橋へ昇る階段の左手斜面にはピンク色の花がぎっしり並んで、かたどっているのはハートマーク！

この花々のなか、真夏の日差しのもとで、談笑しながら作業をしている人たちがいます。丁寧に枯れた花を摘む人、黙々と草引きをする人、ホースを延ばして水やりをする人：オレンジ色のエプロンを身につけた『花いっぱい運動の会』の皆さんです。

手がける花壇は、今でこそ花いっぱいですが、15年ほど前には、現在の姿からは想像もつかないほど荒れ果てていました。

荒れ放題だった植栽帯を 潤いと彩りあふれる花壇に

『花いっぱい運動の会』が手入れを始める前の花壇は、植えられた低木が枯れ、雑草が生い茂っていました。会の



右：日差しが強い中除草作業を行う会員のみなさん



左：花苗を植え付けたのは6月、取材時にはピンクのハートが咲きそろいました



発足から間もなくボランティア会員となつた川阪鈴子さんは、「お勤めしている頃から目に余る状態で、前を通るたび、ここにお花が咲いてたらどんなに

きれいだろうって思っていました」。仕事をリタイアして、ふと目についたのが『花いっぱい運動の会』の募集。「こんなのでやってる！って、すぐに飛びついたので」。

事務局の小林勉さんが補足します。

「その頃のひどい状況を見て、当時の社長が『うち（関西文化学術研究都市センター（株））で何とかしよう』となり、CSR活動として始めたんです。地域のコミュニティ活動を支援したいという想いもありましたから。最初は、社員たちで花壇の土を掘り返して花が植えられるように整備し、まちの住民の方々からボランティアを募集して、力をお借りすることができました」。

とはいえ、初めから爛漫の花壇ができたわけではありません。「社員もボランティアさんも素人。肥料不足とか水のやり方が悪くて、当初はけっこう枯らしています」。それぞれが勉強し、試行錯誤を繰り返して、毎年きれいな花を咲かせられるようになりました。

花のある 景観づくりを ここだけに 留めるのでなく

会の活動を安定させる大きな要因として、法人会員の存在があります。

現在12団体。毎年、協賛金のかたちで支援を仰ぐ一方で、6月と11月の花の植え替え作業は、法人会員の従業員の皆さんも参加する賑やかな交流イベントになると同時に、花のある景観づくりのすそ野を広げる啓発にもなっています。

また、花の植え替えには、地元小学校の児童も参加。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため休止していますが、例年、子どもたちに花を育てる楽しさを広めています。

また、花苗の一部は地元高校の園芸科で育てたものを購入して植えているそうです。駅前できれいに花を開かせることで、生徒さんたちの励みに、ひいては未来の園芸家の応援にもなっています。

会員の熱心さと事務局の心配りで 進化していく花壇

花壇に近寄ってみると、花言葉や原産地などが記されたフラワールABELが

設置され、より親しみやすい工夫がされています。昨年から、花壇に自動散水システムを敷設。水やりの負担を減らすとともに、花々が安定して咲き続けるようになりました。

これらは、ボランティア会員からの意見を基に、カタチにされたもの。皆さん日頃から活動に熱心で、所定の活動時間以外でも、買い物に来たついでに枯れた花を摘んだり草引きをしてくれる方が結構いるんだとか。熱心に活動を続けられる、その秘訣は、「事務局の方が、暑い時は自制してくださいね、水分摂って、日陰で休んで、って、すごく気を使ってくださるんです」と、山口悦子さん。

来年にはニュータウンのまち開きから50周年を迎えます。どんなアイデアが飛び出して、どんな楽しい花壇ができあがるのか、期待は高まるばかりです。

※ボランティア募集中。活動に興味を持った方は、0742-9313571（花いっぱい運動の会事務局）まで。





設置したプランターの植え替え作業の様子

石原田町 シニアクラブ双葉会



石原田町シニアクラブ双葉会 会長
江島利典さん

花いっぱい活動を通して安全安心で「美しい地域」をつくる

近鉄耳成駅周辺の道路や歩道にプランターを設置し、
花の植え替え・維持管理を行う「石原田町シニアクラブ双葉会」。
そのほかにも、放置自転車の見回り・撤去作業、地域の古紙回収、地元小学生の見守り活動など、
さまざまな形で地域に貢献しています。

**駅周辺の景観を
改善するために活動をスタート**

昭和50年代、橿原市の近鉄耳成駅周辺にはごみや自転車が放置されていた。その状況を改善しようと、活動をスタートさせたのが「石原田町シニアクラブ双葉会」。

現在は、橿原市から委託された事業として、放置自転車の見回りと撤去作業を行っています。週三回シフト制で活動し、それと同時に行っているのが、植栽活動。近鉄耳成駅周辺の道路や歩道にプランターを設置し、年に3回、花の植え替えを行っています。管理しているプランターは、45基。春はペゴニア、ニチニチソウ、冬はハボタンなど、丈夫で管理しやすい花を選んで植えているそうです。「花の専門的な知識はありませんが、元々農家の生まれで、花も育てていたの、土いじりは慣れていました。メンバーで協力しあって、花を育てるのは楽しいですね」と話すのは、会長の江島利典さん。現在の登録メンバーは44名。女性の参加率も高く、丁寧な維持管理も、このクラブの特徴です。

植栽活動中、地域住民から声をかけられることも多いとのこと。「『ごろうさま』『きれいですね』『何の花ですか?』など、声をかけていただけることはとてもうれしく、活動の充実感に



つながっています」。活動中にメンバーが着用するオレンジ色のユニフォームも、地域を明るく照らしています。

さまざまな活動で地域に貢献！ 地域住民の理解も徐々に深まる

近鉄耳成駅周辺の清掃活動も行い、石原田町内の古紙の回収も活動の一つ。



右：花が長持ちするようにこまめに水やり
左：土を丁寧に扱って苗床を作ります

「檀原市では、資源ごみを回収すると、1kg単位で報奨金をいただけるので、会の財源確保という観点からも積極的に行っています。その報奨金は、私たちの貴重な活動資金となっています」。古紙回収を始めたのは、江島さんのアイデア。「檀原市の老人会のさまざまな方と話す機会があるので、その時に聞いた話で『自分たちにもできる』と思い、動き始めました。『こんなことできないかな』『できたらいいな』と考えていることが一つでも形になると、うれしいものですね。それも活動のやりがいです」と江島さんは笑顔で話します。月末の古紙回収も地域に浸透し、協力的な地域住民も増えているそうです。

さらには、地元小学生の登下校の見守りも行っているとのこと。「行事や曜日によって、下校時間が異なり、保護者の都合がつかないこともありま

す。そのため、3月・9月は協力月間という位置づけで、放置自転車の見回りや撤去作業を担当するメンバーが時間をずらして、協力しています」。

会に入るきっかけは人それぞれ 課題解決に向けても前向き

江島さんに、長年活動を続けられた秘訣も聞いてみました。「定年後、この地域に貢献していこうという気持ちを持ったメンバーが数名いたからだと思います。新たに入ってこられる方は、一緒にカラオケをしたとか、きっかけはいろいろです。『こんなこともやっているけど、どうですか』と、さまざまな提案をして初めて興味を持ってもらえる。花の植え替えには、毎回20人近くのメンバーが集まります。ありがたいし、心強いです」。

現在の課題は、メンバーの高齢化。「若い世代の力を借りたいところですが、仕事との兼ね合いがあるのでなかなか難しいというのが現状です。地域

の皆さんの参加意識や仲間意識を高められるような活動ができれば、今後の会が発展していく原動力になると思います」。江島さんが構想の一つとして考えているのは、日頃、見守り活動で接している小学生の親子が植栽活動に参加できる仕組みづくり。「花の栽培についても、良い学びになりますし、親にとっても、貴重な機会になるはずで





草刈りやごみ拾いをしながら山道のルート整備

えこ 笑郷まほろばの会



笑郷まほろばの会 事務局
安堂 和佳子さん



笑郷まほろばの会 理事長
平山 陽一さん



笑郷まほろばの会
森林インストラクター 自然再生士
矢野 学さん



笑郷まほろばの会
建築家
曾根 秀一さん

次世代に「豊かな自然」と「あたたかな人の輪」を残したい

地域住民が協力し合って、お互いに暮らしのニーズを満たし合う、柔軟で力強い持続可能な地域社会をめざす「笑郷まほろばの会」。その活動は多岐に渡り、メンバー一人ひとりが精力的に活動しています。

メンバーの夢を詰め込んだ
「どんづるぼうの森」活動

自然と地域における「あたたかな人」と人のつながり」をつくることを目標に設立された「笑郷まほろばの会」。毎朝行うラジオ体操の仲間により平成28年に結成され、香芝市内を中心に5年間活動を続けています。

この会が今進めているのが、「どんづるぼうの森」プロジェクト。県天然記念物で、1500万年前の二上山火山の火砕流で生まれたユニークな地形の屯鶴峯^{どんづるぼう}。第二次世界大戦末期、陸軍の航空司令所として掘られた2キロに及ぶ巨大な地下壕や、旧石器時代に石器材料として使われていた「サヌカイト」や石器をつくった痕跡など、特異な地形や歴史があり、その特徴を活かした森をつくらうというプロジェクトです。「笑郷まほろばの会」は、域内の近畿自然歩道を復活させ、自然観察や調査だけでなく、気軽に散策ができるように、定期的に草刈り、ごみ拾いを行っています。森に隣接する国道沿いのごみ拾いも活動の一つです。

「どんづるぼうの森」プロジェクトへの思いを語ってくれたのは、メンバーの矢野学さんです。「どんづるぼうの森」にあるこれらの宝を放っておくと、どんどん傷んでいきます。子どもや孫たちの世代につなげられる形にして残



すには、今、活動するしかありません。二上山火山活動と地形・地質と、その上にできたそれらの資産をまとめて楽しむ形として、将来ジオパークにする

夢も描いています」。

取材のため活動に同行したのは、8月真っ只中。酷暑での活動ですが、汗をぬぐいながらも作業の合間で自然観察を楽しむメンバーからは笑みがこぼれます。

『地域の居場所』として 空き家をリノベーション



右：進化する空き家『竹の杜』
左：メンバーはみんな元気いっぱい

『どんづるぼうの森』の活動のほかにも、自然観察会・勉強会、ササユリ保全プロジェクト、地元のホテルティアフェスティバルへの参加など、「笑郷まほろばの会」の活動は幅広く、精神的。その多岐にわたる活動の拠点となっているのが、進化する空き家『竹の杜』です。「地域には、住民が集える場所が少なかったこともあり、『地域の居場所』をつくりたいと、空き家の活用を考え始めました」と語るのは、メンバーの曾根秀一さん。場所や広さなどを考慮

し、候補地を決定。香芝市の補助金制度も利用した空き家再生が始まりました。荒れ放題だった敷地の草木を除去したり、手作りで内装を施すなど、地域の皆さんの知恵と経験を持ち寄ることで、空き家は地域の集える場所として生まれ変わりました。『竹の杜』は、地域住民に限らず誰でも利用することが出来ます。『どんづるぼうの森』の整備が進み、ハイカーが多く来訪するようになれば、ここまでお茶を飲みに来てくれたらいいね」と、事務局長の安堂和佳子さんは話します。『竹の杜』は、毎月さまざまなイベントが開催され、地域の憩いの場所として活用されるとともに、街並み景観の向上にも寄与しています。

人とのつながり、活動を楽しむ思いが 新たな成果を生む

定期的を実施している自然観察会や勉強会には、さまざまな分野の専門家を講師として招き、話を聞き、意見交換することで、学びを深めています。環境学を専門とする大学教授、華道・茶道の師範、昆虫生態写真家、ニホンミツバチ愛好家など、その多彩さには驚くばかり。なんと、最初は講師だっ

た方が新たにメンバーに加わってくれることもあるそうです。

年々ネットワークを広げ、様々な分野に精通した方と意見交換を行えることが、「笑郷まほろばの会」の強みであり、活動の幅を広げられる大きな要因となっているように思えます。

安堂さんは言います。「活動する上で、人とのつながりを大切にしています。また、ワクワクする自然や風土の新しい発見、勉強に取り組んでいます」。

矢野さんが続けます。「まずは自分たちが楽しいことをやろうよ、というのが基本です。ただそこで気をつけなといけないのが、自分たちだけの楽しみじゃないということ。『どんづるぼうの森』も、地元のためだけのものではない。どこの人が来ても迎え入れ、楽しんでほしいと思います」

少年のような探求心を原動力に、「楽しむ」を大切にするメンバーの思いは、人との出会いやつながりの中でさらに広がっていくことでしょう。



ご活用
ください!

なら四季彩の庭づくりアドバイザー制度



景観デザイン、造園、植物の育成・管理等について、実務的・専門的知識を有する方々を「なら四季彩の庭づくりアドバイザー」として派遣します。

■ 対象となる事例

植栽等による魅力ある地域づくりのため、以下により開催する講習会や勉強会等

- 「良好な植栽景観の保全・創出・活用」
- 「普及啓発・担い手の育成」
- 「植物の育成管理」
- 「その他知事が認めるもの」

※以下の条件を全て満たす必要があります。

- ①県民、県内への通勤・通学者を対象に、県内で開催
- ②参加者が原則として複数名
- ③政治、宗教又は営利を目的としない
- ④社会貢献活動の一環として行うもの(事業者のみ)

■ 派遣対象者(申請者)

自治会・学校・事業者・地域グループ等、地方公共団体



注意事項

- 派遣するアドバイザーを指定することはできません。
- アドバイザーへの謝金・旅費以外の諸費用については申請者の負担となります。
- アドバイザーは可能な限りの助言・講演等を行います。必ずしも課題等の解決をお約束するものではありません。あくまで一つの助言・参考意見として、申請者のご判断の下、ご活用ください。

申請方法等詳細については下記 HP をご覧ください

なら四季彩の庭



専用ホームページ▶▶▶



お問い合わせ

奈良県環境政策課

電話 0742-27-8732 / FAX 0742-22-1668

こちらもご活用ください!

馬見丘陵公園 園芸相談

0745-57-3987

毎週木曜

(祝日・年末年始除く)

10:00~12:00

14:00~16:00

植物の育成・管理等について
電話で相談できます。



令和3年度「不法投棄ゼロ作戦」推進キャンペーン

11月8日(月)から14日(日)は、「不法投棄ゼロ作戦」強化週間です。

不法投棄をしない、させない、許さない!!

強化週間中は各市町村にて集中的な啓発活動及び特別パトロールを行います。

不法投棄ホットライン
(奈良県景観・環境総合センター)

こちらきゆうぎゅうさんばい

0120-999-381

お問い合わせ先

奈良県不法投棄ゼロ作戦推進キャンペーン実行委員会 事務局 (奈良県環境政策課内)
TEL.0742-27-8732



奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル 第17号

2021年10月発行

発行 / 奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町 30

TEL.0742-27-8732 FAX.0742-22-1668